

令和2年度 第1回鳴門市総合教育会議 議事録

令和2年6月8日、14時00分に鳴門市本庁舎3階会議室で開会。

同日15時17分に閉会した。

・出席者

(会議構成者)

泉市長、安田教育長、甲斐委員、加藤委員、濱川委員、川上委員

(会議構成者以外)

市長部局

谷副市長、小泉政策監、尾崎事業推進監

教育委員会事務局

大林教育次長、笠原教育総務課長、並木学校教育課長、

中野教育総務課副課長、板東学校教育課主幹、和田学校教育課副課長、

会議事務局

阿部秘書広報課長、山田秘書広報課主事

・傍聴者

1名

・会議は、市長が議事を進行した。

・議事の内容は次のとおりである。

(1) 新型コロナウイルス感染症に対応した学校運営のあり方について

① 夏季休業日の対応について

② GIGAスクール構想の実現について

(2) 幼稚園の再編について

阿部秘書広報課長は、14時00分に令和2年度 第1回鳴門市総合教育会議の開会を宣言した。

阿部秘書広報課長は、鳴門市総合教育会議設置要綱第5条の規定に基づき、議事の進行を市長に求めた。

市長は、議事(1) 新型コロナウイルス感染症に対応した学校運営のあり方についてのうち、①夏季休業日の対応について説明を求めた。

教育委員会事務局は、夏季休業日の対応について説明を行った。

市長は、夏季休業日の対応について、教育長・各委員に意見を求めた。

濱川委員：休業期間の授業を取り戻すために、夏季休業日の短縮を行うことは仕方ない。

甲斐委員：夏季休業日の授業となると、子どもたちの暑さ対策が必要。南向きになると、エアコンの効きが悪くなる。さらにマスクをして、制服を着て授業となると非常に暑くなってくると思う。本来の夏休み期間中だけでも体操服での登校はどうか。

教育委員会事務局：体操服での登校については、暑さ対策として各学校に話があった旨伝えて配慮するよう伝える。

加藤委員：夏季休業日の対応については、未履修内容がある以上仕方がない。一番心配しているのは、子どもたちの心のケアであると思う。新型コロナウイルスに関連した差別事象がしきりに報道された折でもあり、早い段階でしっかりと人権教育をする必要があるのでは。

川上委員：夏休み期間中に授業するのであれば、暑さ対策が一番気になるところである。普通教室にはエアコンが付いているため安心。むしろ、もっと未履修内容の対応に日数が必要であると思っていた。この夏休み期間内で対応できるのであればよい。

市長：未履修時間は学校によって違い、この点については、時間が一番必要となる学校に合わせる。また、マスクの着用については、運動中はマスクをしなくてもよいなど情報をしっかりと伝えていかなければならない。

教育委員会事務局：授業中ずっとマスクをしており、体調を崩す児童もいると聞いている。マスクの着用については、屋外で活動する時間は外すことや、体調などを見ながら柔軟に対応していきたい。これから、さらに暑くなってくるため慎重に対応していく。

市長：学習以外でも体育祭、運動会や修学旅行など各行事がある。行事については短縮等の対応はあるのか。

教育委員会事務局：修学旅行については、今秋に実施する方向で検討している。運動会についても現在は実施の方向で検討中。水泳（プール）活動も実施予定である。

甲斐委員：熱中症対策にもなるため、プール活動が実施されるとのことで安心した。

安田教育長：各学校で調査を行い、考えられる問題点を検討し、避けられない問題がある場合は、スポーツ庁の指針等に沿って対応をする。これらの対応について、すべての教員が同じ意識を持てるようになっていきたい。

川上委員：学年が小さいほど、暑い中授業をする負担が大きくなる。総合学習など校外へ出る時間を作るなど、少しでも児童の負担を軽減できるようにしていただきたい。

市長は、議事②G I G Aスクール構想の実現について説明を求めた。

教育委員会事務局は、G I G Aスクール構想の実現について説明を行った。

市長は、G I G Aスクール構想の実現について、教育長・各委員に意見を求めた。

川上委員：3, 800台もの数のタブレットを一度で準備できるのか。

市長：県で取りまとめたうえで、県下全体で導入を進めていくため、数については問題なく準備できると考えている。今年度中には、一人一台整備し、学校の環境はしっかりと整えたい。しかし、先生方が整備したタブレットをすぐ使えるのかという課題がある。先生方に何かフォローアップがあるのか。

教育委員会事務局：I C Tに関する研修などを行って、教員にもしっかり周知していきたい。

甲斐委員：学校への端末整備について鳴門市はどうするのかと心配していたため、今回の説明を受けて安心した。文部科学省の情報を見て、できる自治体からどんどん導入していただきたいとなっていたが、鳴門市としてはどう考えているのか。

市長：本市においてもできるだけ早く整備していきたい。

川上委員：用途によってタブレットの機種や性能の仕様は大事である。タブレットの仕様は県から情報が出てくるのか。

市長：こちらからの要望は伝えている。仕様については、過剰でも少なくともダメなので、しっかりと検討していきたい。

濱川委員：タブレット等を使う以上、使い方のルールや秩序をしっかりと作ったうえで整備していく必要があると思う。

加藤委員：G I G Aスクールの考え方は大賛成である。しかし、2点気になることがある。まず、教員の負担になるのではとの懸念がある。各学校に1人、少なくとも2学校に1人、I C Tの専門の方がいたら非常に負担が解消されるのでは。もう1点は、従来の一斉学習がともすれば劣っている、あるいは時代遅れのように捉えられているのではないかとの懸念である。タブレットを使った個別授業も重要であるし、通常の一斉授業も非常に重要であると考えている。それぞれの授業を有効に組み合わせながらI C T機器を活用していただきたい。

市長：学校外でも ICT に詳しい方はたくさんいる。鳴門市内でも事業として ICT に関わっているところもありますので、先生方のフォローをできないか検討していくべきであると考えている。

市長は、議事（２）幼稚園の再編について説明を求めた。

教育委員会事務局は、幼稚園の再編について説明を行った。

市長は、幼稚園の再編について、教育長・各委員に意見を求めた。

川上委員：子どもたちは高いレベルの幼稚園教育を受けられることが大前提。よりよい環境を作ってあげられることが重要である。そのような観点から民間事業者が空いている幼稚園の施設や土地を活用したいとなった場合は、使えるのか。

教育委員会事務局：閉園する施設については、今後、本市全体の就学前教育・保育等の充実に資するのであれば、民間の協力による活用も将来的には検討していく方針である。

市長：就学前教育・保育については、保育園、認定子ども園、幼稚園など、どこから入学しても小学校に入った時点で、差が出ないようにすることを一番に考えていくべきである。

川上委員：幼稚園教諭の採用試験に応募される先生が少ないと聞いた。たくさんの先生方に来ていただける魅力のある幼稚園となるよう、頑張ってください。

加藤委員：小・中学校の事例として、他自治体では、県外の現職教員を募集する自治体もある。家庭の都合等で戻ってくる方を対象に一次試験免除等の対応をして、募集してはどうか。現職なのでレベルの高い教員が確保できるのでは。

教育委員会事務局：他自治体の事例を研究するなどして、検討していきたい。

阿部秘書広報課長は、15時17分に閉会を宣言した。